

センターだより

第69号

発行
平成20年8月



別府公園から望む山々

もくじ

就任挨拶 中村欣三所長	2
介護の現場より	3
頸髄損傷者のリハビリテーションを考えるシンポジウム開催	4
修了者のアンケート結果の概要について	4
職能訓練だより	5
クラブ活動紹介～ツインバスケットボールクラブ～	6
行事アラカルト	7
修了生の状況、職員異動等	8

指定障害者支援施設

国立別府重度障害者センター

就任挨拶

所長 中村 欣三



本年4月1日付けで所長に就任致しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は、昭和47年に福岡視力障害センターに採用されてから国立の施設での勤務は当センターが五つ目となります。これまでは視力障害関係の施設が多かったのですが、重度センターは初めての勤務であり、また、以前から一度は勤務してみたいと希望していた施設でもあることから、気を引き締めて臨みたいと思います。

さて、所長室の壁にはセンターの基本理念が書かれた額が架かっています。そこには、センターは、

- 一、利用者の基本的人権を尊重します。
- 二、利用者の自立と主体性を支援します。
- 三、利用者が社会の一員としてあらゆる活動に参加する機会を支援します。

と、書かれています。

センターでの訓練を希望して入って来られる利用者は、その目的は家庭復帰や就労支援施設入所、一般就労などであり、個々の目的は違っていても、社会の一員としてあらゆる活動に参加するため機能回復訓練を受けるという大きな目標を持ってセンターを選んで頂いたものです。

その期待に応えるためセンターとして何ができるのか、何をやらなければならないの



か、民間の施設ではなく、全額国費で運営されている国立施設としての果たすべき役割を認識しつつ、これまで培ってきた訓練や介護のノウハウを最大限に活用して、頸髄損傷という重い障害を持った方でも医学的管理のもと、利用者の個々人にあった適切な訓練を行えば家庭復帰だけでなく就労も可能だということを示していきたいと考えています。

そのためには、センター職員一人一人の努力と連携を期したいし、それにもまして地元の方々や関係機関の協力が必要です。障害を持っていても一般の方と同じようにあらゆる活動に参加する機会を得られるよう、どうか今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

介護の現場より

介護業務とは

身体的、精神的な障害や疾病による心身機能低下により日常生活動作（入浴・排泄・食事・移動・更衣・整容）が困難になり、自立できなくなった人に対して心身共に安定した状態で、リハビリテーションが受けられるように援助をします。

介護計画

- 1) 暫定的な介護計画・・・入所時に担当介護員が利用者の身体状況に基づき介護支援が行えるように暫定的な介護計画を作ります。
- 2) 本格的な介護計画・・・暫定的な介護計画を実施しながら情報収集をし、情報に基づき、入浴・トイレ・食事・体位変換・乗降車時間についての具体的なスケジュールを組み入れた介護計画を作ります。



介護の種類

- ・排泄（排尿・排便）介助、失禁等の対応
- ・入浴・洗髪・清拭介助
- ・体位変換（褥瘡予防）介助
- ・食事介助（P S B・マイスプーン）
- ・移乗動作介助
- ・衣類着脱介助
- ・整容（整髪・歯磨き・爪きり・髭剃り）
- ・衣類・寝具等の管理（夏・冬の入替え・マット類の保管）
- ・外出・外泊・入院の為の準備
- ・居室の整理・整頓・清掃
- ・生活管理（代筆・CD等の入れ替え）
- ・センター行事の介護（体育祭・文化祭・バスピク・ショッピング等）
- ・シーツ交換・尿器磨き・タッパー洗い

介護入浴日

女性入浴日～月・木、 男性入浴日～火・金

介護福祉実習生の受け入れ（平成19年度実績）

平成19年度、当センターでは別府大学短期大学部福祉専攻科より12名、大分県竹工芸・訓練支援センター介護サービス科より15名の介護福祉実習生を受け入れ、介護職員の養成に協力しています。

● 頸髄損傷者のリハビリテーションを考えるシンポジウム開催

平成20年3月8日（土）に別府市のビーコンプラザにおいて「頸髄損傷者のリハビリテーションの現状と課題」をメインテーマにシンポジウムを開催しました。

当日は、病院や施設等の関係者約180名が参加、九州だけではなく、遠くは関東、関西からも多数参加して頂きました。



午前は吉備高原医療リハビリテーションセンター院長徳弘昭博先生から講演をして頂きました。「頸髄損傷者が病院～社会復帰のシステムがまだ確立されていない。このような現状の中で病院、施設がどの様に連携してリハビリテーションを進めるか、それぞれの専門職が考えていく事が重要である。」等の話をして頂き、参加者からも徳弘先生に対して多くの質問があり、丁寧に回答して頂きました。

午後は、当センター訓練紹介の後、病院等医療機関と当センターが連携し、利用者が社会復帰した事例を中心に事例報告会が開催され、それぞれに関わったスタッフが協同発表をしました。

続いてコーディネーターに国立身体障害者リハビリテーションセンターの岩崎副理学療法士長を迎え、当センターと関わりが深い5病院から訓練の担当スタッフと当センターの訓練職員によるパネルディスカッションを行いました。

● 修了者のアンケート結果の概要について

当センターを修了した利用者の地域生活の状況を把握し、今後のサービス提供方法を検討する上での基礎資料を得ることを目的に、アンケート調査を実施しました。概要は以下のとおりです。

1. 対象者 平成9年4月1日～平成19年3月31日の修了者で243名
2. 回答者 78名（男性 64名、女性 14名）
3. 質問項目 58項目
4. 概要
 - ① 過去2回に比べ、回収率が32.11%と大幅に低下している。
 - ② 回答率は年齢が高くなるほど高くなっている。
 - ③ 回答者の疾患別では、脊髄疾患が95%以上と割合が高くなっている。
 - ④ 施設の利用期間は、1年～1.6年の割合が高い。
 - ⑤ センターで有意義だった訓練については、筋力増強訓練（PT）、ADL訓練（OT）、車

- ⑥ イス走（SP）パソコン（職能）の割合が高い。
- ⑥ 支援内容の満足度については、各訓練部門とも約80%が「満足あるいは普通」との回答であった。
- ⑦ 現在困っている動作では「排便動作、排尿動作、入浴動作」の割合が比較的高かったが、反面「自立しているため、特にない。」と答えたのも同じ割合であった。また、当センターで訓練を受ける際に希望する訓練は、筋力増強訓練（PT）ADL訓練（OT）各種ゲーム・スポーツ（SP）パソコン（職能）
- ⑧ センターへの要望は、「困ったときの相談」「訓練方法・健康管理等の情報提供」を上げている。

回答して頂いた内容については、精査し今後のセンター運営に役立たせていきたいと思っております。回答していただいた修了者の方にお礼を申し上げます。

詳細については、直接当センターへお問い合わせ下さい。

職 能 訓 練 だより

職能訓練室

作品展

昨年に引き続き、トキハ別府店と大分銀行明野支店にて作品展を開催しました。トキハ別府店ではテーマを「国立別府重度障害者センター展」とし、2月16日(土)、17日(日)の2日間、手織り・トールペイントの作品展示だけではなく、パネル



トキハ作品展

やビデオにてセンター全体の様子やPT・OT・SPの各種訓練の紹介も行いました。特に福祉機器の展示コーナーには幅広い世代の方が足を止めて実際に使ってみるなど、多くの方が興味深く説明を聞いていました。



大分銀行明野支店 H20.6.7~H20.6.20

グリーンコープ生協での活動

職能訓練にて手織り・トールペイントの技能を習得し、地元で制作活動を継続している修了生の皆さんの販路が広がっています。平成19年8月よりグリーンコープ生協での販売が開始され、平成20年6月現在までに計9回の納品を行いました。グリーンコープ生協とは、九州・中国地方・大阪・神戸等の14府県で活動している生活協同組合のネットワークです。まずは各地域の組合委員を対象に巡回展示販売を行っています。これまで福岡→大分→山口→長崎→熊本→宮崎→鹿児島→佐賀(平成20年4月)と順々に各地域で販売を行い、今後も各支部への移動販売が予定されています。平成20年6月1日現在、22名の修了生が商品制作販売に携わっています。皆さんの体

調等の理由で納品状況も緩やかですが、順調に売上を伸ばしています。今後も更に安定した販売活動が可能となるよう、訓練期間中より自営を意識したカリキュラムにも力を注いでいきます。



グリーンコープ用商品制作者数(平成20年6月1日現在)

単位(人)

三重	広島	山口	徳島	高知	福岡	大分	佐賀	長崎	沖縄	合計
1	2	1	1	1	6	7	1	1	2	23

クラブ活動紹介

～ツインバスケットボールクラブ～

ツインバスケットボールクラブ（NBC）を紹介します。平成3年4月創部のクラブで、OBの皆さんの中には地元のチームで活躍されている方もいます。現在12名の選手と5名のスタッフで構成していますが、各選手の当センターの利用期間が異なるので、なかなか固定されたチーム編成が出来ないのが残念です。毎週水曜日の14時30分～16時30分に当センター体育館で活動しております。

平成20年6月28日（土）・29日（日）に九州車椅子ツインバスケットボール選手権大会が佐賀市で開催されました。インクリース佐賀と福岡BEATの両チームと対戦し、0勝2敗の結果でした。今後の奮闘に期待します。

池田部長から一言。「ツインバスケットボールは障害の程度に応じてルールが工夫されており、年齢、障害を問わず、楽しめるスポーツです。ぜひ一度遊びに来てください。」

◎ツインバスケットボールとは？

- ①四肢麻痺（主に頸髄損傷）の方を対象としたスポーツで、日本で考案されました。
- ②二組のゴールが設けられています。（「ツインバスケ」と言われるゆえんです。）正規のバスケットボールゴール（高さ3.05メートル）にシュートが届かない選手のためにフリースローサークル内のゴール（高さ1.2メートル）がセットされています。
- ③重度障害者でも楽しめるように、選手の障害の程度によりシュートやドリブル、制限時間等のルールが工夫されています



行事アラカルト

舞妓さん来所

3月29日(土)トキハデパート別府支店のご好意で、京都の舞妓さん2名が来所されました。踊りの披露がメインでしたが、質問タイムの時間もあり、日頃接する機会がない舞妓さんの来所に楽しい一時を過ごしました。



蛭の交歓会について

6月5日(木)今年も竹田市立南部小学校から「蛭」が届きました。6年生39名を始め、教諭、PTA関係父兄、竹田ロータリークラブ関係者総勢52名が来所されました。午前中は贈呈式、午後からは車いす体験をはじめ各訓練の体験を行いました。

この交歓会は、昭和41年に始まり今年で43回という長い歴史があります。

夜は、鑑賞会が開かれ蛭を間近で見るとは初めてという利用者も多く、幻想的な光を楽しみました。



南部小学校児童からプレゼント贈呈

春のスポーツ大会



岳、神野両キャプテンによる選手宣誓

今年は、諸事情があり、6月25日に時期はずれの「春のスポーツ大会」が行われました。梅雨時期であることも考慮し、体育館での開催となりました。開会式では、紅組キャプテンの岳大地さん、白組キャプテンの神野仁茂さんが選手宣誓を

行い、その後も各種目において、それぞれのキャプテンが互いの対戦チームの選手構成を見ながら出場選手を調整する等、大会全体に渡り活躍をされました。

参加利用者の方々も、各種目で健闘し、日頃の訓練の成果を発揮されていました。

結果としては紅組の優勝でしたが、白組も大健闘で、とても白熱したスポーツ大会となりました。



競技「バトルロイヤル」の一幕

修了生の状況

平成20年1月1日～平成20年6月30日

復帰形態	家庭復帰	就職	職業訓練校	自営	病院	他施設	計
人数	9	1	0	0	2	5	17
比率(%)	52.9	5.9	0.0	0.0	11.8	29.4	100.0

職員異動

平成20年3月30日

- 退職・庶務課庶務係 河野メイ子(任期付職員 任期満了)

平成20年3月31日

- 退職・所長 江原 徳至
 ・ 医務課医長 河合 浩二
 ・ 医務課臨床検査技師 立川 保(定年退職)
 ・ 医務課主任介護員 小石 好子
 ・ 医務課介護員 江藤加奈子



平成20年4月1日

- 転出・庶務課会計係 佐藤 智治(国立神戸視力障害センターへ)
 ・ 庶務課庶務係 川名 敦(厚生労働省へ)
- 転入・所長 中村 欣三(関東信越厚生局より)
 ・ 指導課長 後藤 幸雄(厚生労働省より)
 ・ 庶務課会計係 馬場 猛(厚生労働省より)
 ・ 指導課入所者援護係 重田 洋二(国立身体障害者リハビリテーションセンターより)
- 新規採用・医務課医師 岡田 文
 ・ 医務課介護員 小野紗弥香
 ・ 医務課介護員 本田 貴大
- 内部異動・医務課業務係長併任 竹尾 好廣 ・ 医務課運動療法士長 木畑 聡
 ・ 医務課主任介護員 西岡 啓子 ・ 指導課生活支援専門職 川辺 明子

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が運営する指定障害者支援施設として、重度の肢体不自由の方が社会復帰が可能となるための必要な自立訓練(機能訓練)を中心とした様々な支援を実施しております。

当センターの利用にあたっては、お住まいの市区町村で福祉サービス受給者証を受ける必要があります。

利用申込みや見学などのお問い合わせは当センター指導課まで、ご相談下さい。

ご利用できるサービスは次のとおりです。

- 自立訓練(機能訓練)
 理学療法、作業療法、運動療法、職能訓練です。
 利用期間は、標準利用期間として1年6ヶ月です。
 自宅から通いながらの利用も可能です(通所)。

- 施設入所支援
 自宅から通えない方のために、看護・介護等の支援を受けながら寮のご利用が可能です。

お問い合わせ先

国立別府重度障害者センター指導課
 電話 0977-21-0182(相談・受付窓口直通)
 FAX 0977-21-2794
 E-mail soudan@beppu-nrh.go.jp
 http://www.beppu-nrh.go.jp

企画 国立別府重度障害者センター
 発行 〒874-0904 別府市南荘園町2組
 TEL 0977-21-0181

表紙写真撮影：指導課 重田